

# 建設産業の活性化へ団結

## 一般社団 移行後初総会と表彰式を開く

山建設業協会



【山口（一社）山口県建設業協会（井森浩規会長）

写真は21日、山口市のセントコア山口で、一般社団法人へ移行して初めての「平成25年度定時総会及び表彰式」を開き、25年度事業計



総会のもよう

画案、収支予算案などを原案通り満場一致で承認した。総会に先だって行われた表彰式には、小口浩真土木建築部長、畑原基成県議会副議長、山口晃山口労働局長、堀江豊山口河川国道事務所副所長らが激励に駆けつけた。はじめに、会員物故者に対して黙祷を捧げた後、井森会長が「昨今の建設業を巡る諸情勢は、昨年末の総選挙において、

「自民党政権・第2次安倍内閣」が発足し、経済再生を最大かつ喫緊の課題として掲げ、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略という「3本の矢」を一体的に実行していくこととしている。この5カ月間をみると、アベノミクスによる円安・株高など、着実にデフレ脱却のための成果が表れつつあり、我々建設業界にとっても明るい兆しが出始めているのは承知の通り。また、この度の大型補正や当初予算を合わせた、いわゆる15カ月予算における公共事業費の大幅な増額確保や設計労務単価の引き上げなど、国・県の取り組みに大いに感謝していると

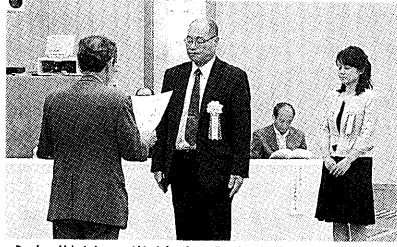
述べている。しかしながら、一方では、建設業を取り巻く環境は、予算の安定的な確保による持続可能な経営の維持対策や

若者の入職対策、あるいは、建設現場における労働安全確保対策や入札契約制度のさらなる改善等々依然として多くの課題が山積している。こうした中であって、役員会員企業が一丸となって、県建設業のさらなる飛躍・発展のため、全力で取り組んでまいりたいと思つたなどと、力強くあいさつした。

続いて、来賓が見守る中で、井森会長が、協会規程による功労会員表彰として村田秀生氏（村田建設）、木原照邦氏（木原建設）、また、永年勤続表彰（勤続30年以上）57人を代表して毛利豊氏（コブロス）、20年以上68人を代表して村上真裕美さん（大栄建設）に賞状と記念品を贈り、その業績を称え、辛苦をねぎらった。また、会員会社や個人が山口県選奨、国土交通大臣表彰、全国建設業協会会長表彰、県優良建設工事表彰を受けたことが報告された。

その後、来賓を代表して、小口部長、畑原副議長、山口局長、堀江副所長が、受賞者にお祝いの言葉を述べるとともに、「大変厳しい環境ではあるが、防災・減災対策、安心安全な県土づくりと活力と魅力ある地域づくり、雇用の安定、労働災害のない職場づくりに必要な社会資本をいざましよう」などと激励の言葉を贈った。最後に、受賞者を代表して毛利豊氏が謝辞を述べて、表彰式を終えた。

その後の総会では、井森会長が議長を務めて議案審議を行い、事務局から24年度の事業、収支決算報告などが行われ、10年前と比べると公共事業は金額にして41%減、会員数も36%減と大変厳しい業界環境が続く中で、公共事業予算の確保、県内企業への優先受注、適正な入札・契約制度改革及びダンピング入札の防止、建設企業の経営基盤の強化と経営革新、労働者確保と若年入職促進対策への推進、災害発生時における支援体制の整備とBCP（事業継続計画）制度の普及促進、社会貢献活動の推進などについて、会員に対して研修・講習会の実施や情報提供することにも、各種機関へ陳情・要望活動の強化を図るとし、これに伴う事業内容、収支予算案を承認して、総会を終えた。



永年勤続の賞状を手渡す井森会長(左)

「永年勤続の賞状を手渡す井森会長(左)」

「永年勤続の賞状を手渡す井森会長(左)」

「永年勤続の賞状を手渡す井森会長(左)」

「永年勤続の賞状を手渡す井森会長(左)」